



2022年5月20日

各 位

会 社 名 リーダー電子株式会社
代表者名 代表取締役社長 長尾 行造
(コード番号：6867 東証スタンダード)
問合せ先
役職・氏名 経理部長 松尾 元喜
電 話 045-541-2121

中期経営指針の更新に関するお知らせ

当社は、2021年5月14日に公表いたしました「中期経営指針の更新に関するお知らせ」を更新いたしましたのでお知らせいたします。

当社といたしましては、事業計画の推進及び市場環境の変化に伴い、定期的に中期経営指針を更新する方針であります。

なお、「中期経営指針（22-25年度）」の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上

Leader

中期経営指針（22-25年度）

~ *For the VMA Leading Company*

リーダー電子株式会社

動画コンテンツの進化

イノベーションは、動画を「大量生産時代」へといざない、
ユースケースの拡大と共に、より高度な「画像処理」が求められる

動画の「大量生産時代」 → 多様なユースケース



高度な / 様々な「画像処理」需要

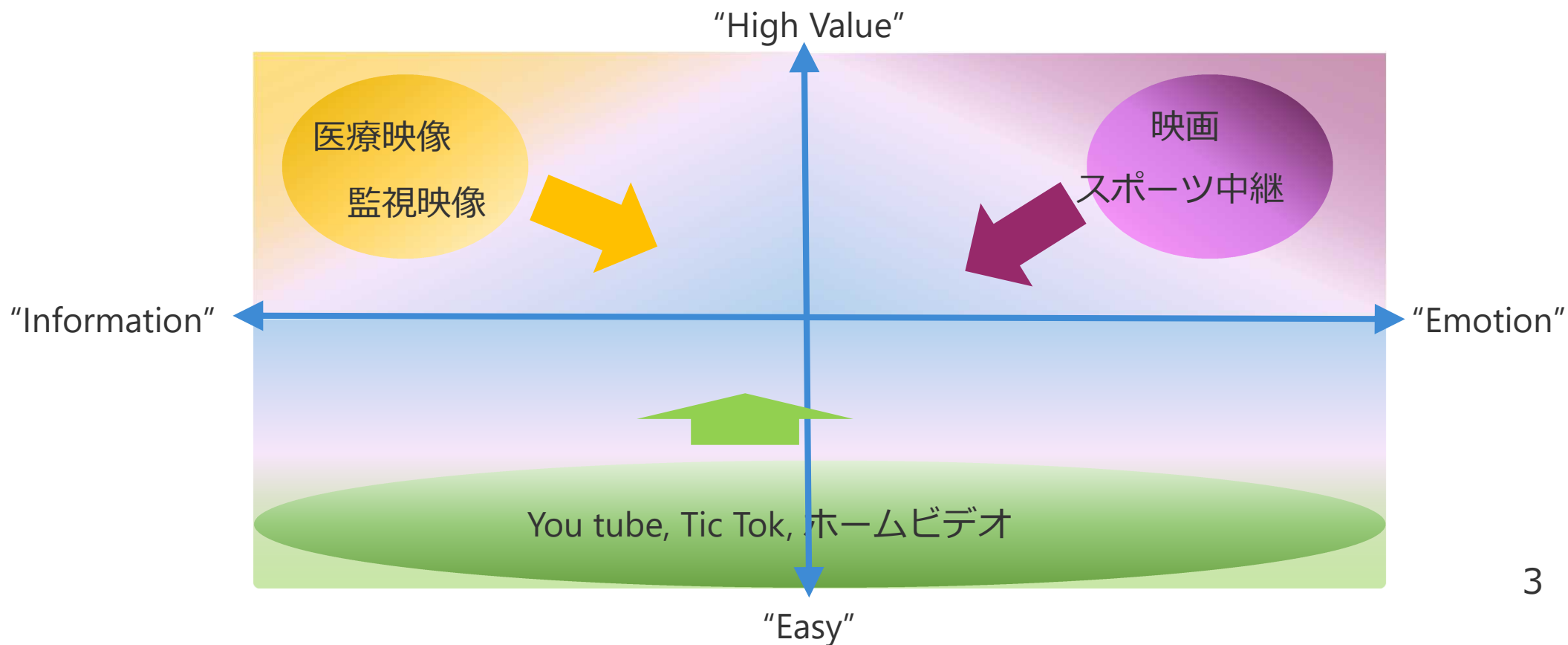
通信の高速化・大容量化

デバイスの進化・普及

ストレージの価格破壊

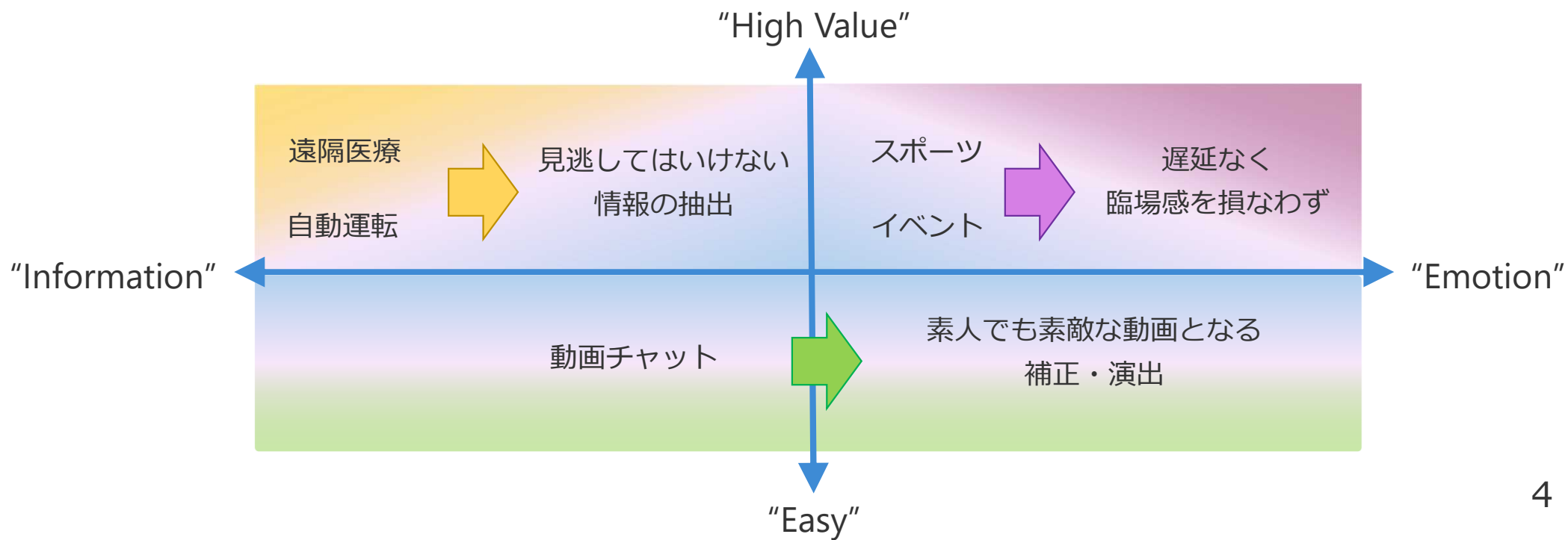
動画の「大量生産時代」

あらゆるコストが下がったことで、動画の制作・保存が容易となり、
 動画の「大量生産時代」が到来しつつある



「画像処理」

動画のユースケースが劇的に拡大するに伴い、画像処理を
 「ポイントを押さえて」「即時」に行うことの重要性が増していく
 ～特に「ライブ」動画では顕著



動画「大量生産時代」に求められる経営

- 高度な / 様々な画像処理需要が爆発的に増加することは確実だが、「どの領域で」、「いつ頃から」、「どの程度」需要が発生するかを予見することは困難
- このような状況下、これらの需要にしっかりと対応するためには、高いアジリティを持った事業開発体制が不可欠



リーダー電子株式会社は、23年度よりカンパニー制へ移行

すべての事業領域において、ニッチトップ（デファクト・スタンダード）の地位確立を目指す

新組織体制 ～23年度より

リーダー電子株式会社を3つのカンパニーへと再編する

グロースビジネス・カンパニー：機動的な新規事業開発を推進

- VMA (Video Management Automation) 事業部門
- イメージセンシング事業部門

バリュービジネス・カンパニー：安定・高収益事業から投資余力を創出

- 放送関連機器事業部門
- ワイヤレス事業部門

シェアードサービス・カンパニー：両カンパニーの効率的運営を支援

- TQM (Total Quality Management) 部
- 総務部
- 経理部

各カンパニーの事業計画

グロースビジネス・カンパニー

バリュービジネス・カンパニー

シェアードサービス・カンパニー

事業目標

2つのデファクト・スタンダード獲得を目指す

【VMA事業部門】

- 動画の品質を自動評価するソリューション

【イメージセンシング事業部門】

- 自動運転領域における魚眼カメラ検査ソリューション

ディープラーニングを使った、コンテンツの異常をチェックするソリューション

The screenshot displays the GLADIAS web interface. The top navigation bar includes 'ファイル', 'MXF Op-atom P2 IMF パッケージ', and 'リンク管理'. The main dashboard features a 'プロセス' (Process) section with a table of content items and a 'エラー一覧' (Error List) section for a specific file.

コンテンツ情報 (Content Information):

- 97 合計 (Total)
- 67 完了 (Completed)
- 13 準備中 (Preparing)
- 69% Progress
- 登録日時: 2021-08-05
- ID: *****
- パーミッション: ROLE_GENERAL
- 課金情報: 過去6ヶ月のカウント, ¥0

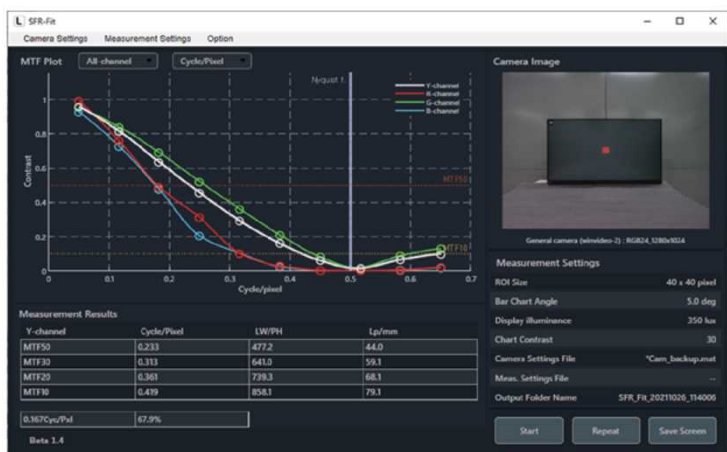
プロセス (Process) Table:

No.	サムネイル	アップロード日時	コンテンツ名	サイズ	R	解像度	バッファ	プロセス	状態	検査項目	オプション
060	[Thumbnail]	2022-01-05 09:05:27	DEMO_ANIMAL_ERROR.mxf	0.31 G	00:00:45	1920 X 1080	バッファ 停止	開始 停止	完了	[Icons]	[Icons]
059	[Thumbnail]	2022-01-05 08:46:30	freedemo1.ts	0.11 G	00:00:23	1920 X 1080	バッファ 停止	開始 停止	準備	[Icons]	[Icons]
058	[Thumbnail]	2022-01-05 08:46:10	DEMO_WALK_ERROR.mxf	0.56 G	00:01:20	1920 X 1080	バッファ 停止	開始 停止	完了	[Icons]	[Icons]
057	[Thumbnail]	2022-01-04 10:37:30	all_mute_2ch.wav	21.97 M	00:02:00	-	バッファ 停止	開始 停止	完了	[Icons]	[Icons]
056	[Thumbnail]	2022-01-04 10:37:19	DEMO_ANIMAL_ERROR.mxf	0.31 G	00:00:45	1920 X 1080	バッファ 停止	開始 停止	準備	[Icons]	[Icons]
055	[Thumbnail]	2022-01-04 10:11:10	Harding_TEST01_59.94I.mp4	1.29 M	00:00:30	1920 X 1080	バッファ 停止	開始 停止	完了	[Icons]	[Icons]
054	[Thumbnail]	2022-01-04 10:10:39	DEMO_KYOTO_ORG.mxf	2.18 G	00:05:12	1920 X 1080	バッファ 停止	開始 停止	完了	[Icons]	[Icons]
053	[Thumbnail]	2022-01-04 10:10:24	DEMO_MOBILITY_ERROR.mxf	0.51 G	00:01:12	1920 X 1080	バッファ 停止	開始 停止	完了	[Icons]	[Icons]

エラー一覧 - DEMO_ANIMAL_ERROR.mxf (Error List):

No.	タイムコード	エラータイプ	プレビュー	信頼度	有効
00001	01:00:01.600	変換エラー - ピクセルノイズ	[Thumbnail]	100.00%	✓
00002	01:00:05.667	ビデオAIエラー	[Thumbnail]	100.00%	✓
00003	01:00:09.400	ビデオAIエラー	[Thumbnail]	97.82%	✓
00004	01:00:12.133	ビデオAIエラー	[Thumbnail]	100.00%	✓
00005	01:00:22.133	ビデオAIエラー	[Thumbnail]	100.00%	✓

カメラの空間周波数応答（SFR）を測定するためのソフトウェア



SFR-Fit

MTF Measurement Software

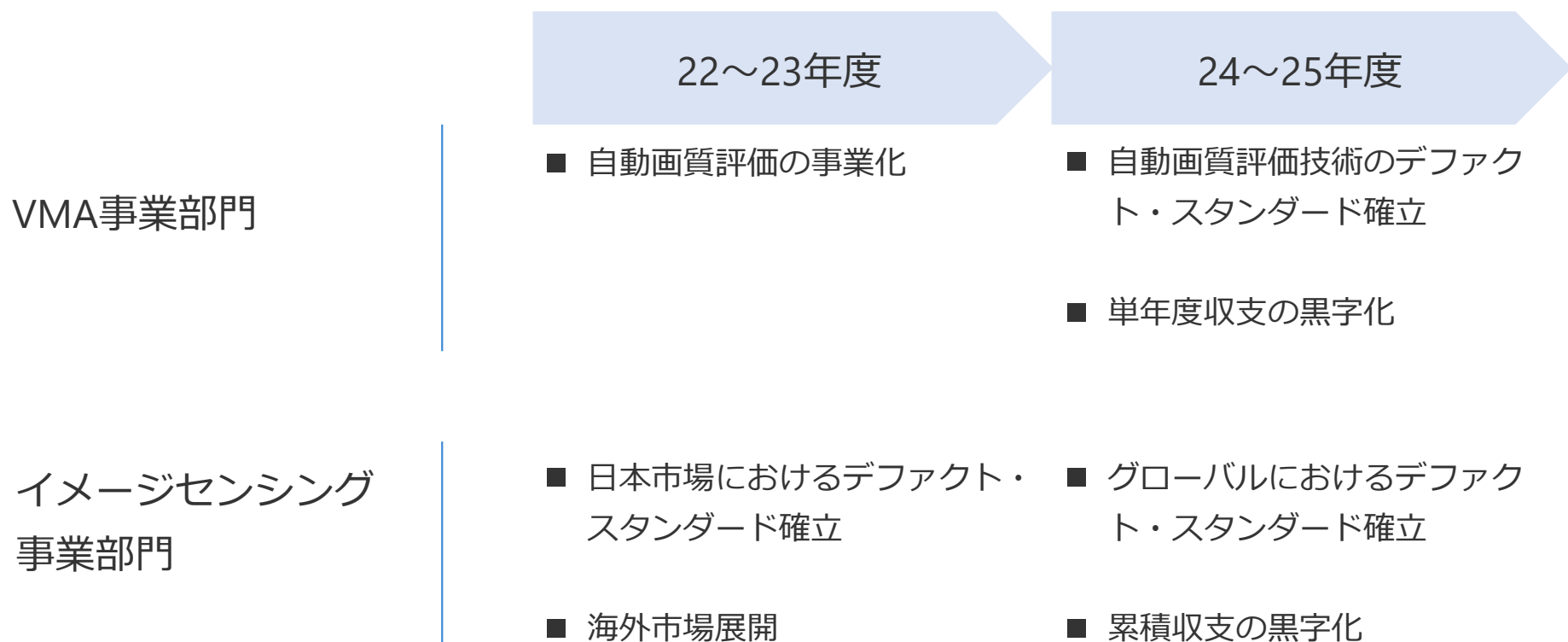
SFR-Fitは空間周波数特性を示すMTF（Modulation Transfer Function）を測定するカメラの解像度測定法です。MTFは撮像対象である被写体の持つコントラストをどの程度忠実に再現できるかを空間周波数特性として表現したもので、カメラの性能を評価する上で最も重要な測定項目です。これまでMTFの測定法はISO12233に基づいた傾斜エッジ法やSiemens Starチャートを使った正弦波法が一般的でしたが、SFR-Fitは画像に合わせてテストパターンを生成するため、従来方式で測定が困難だった大きな歪みのある画像やシャープネス等のデジタル処理をした画像にも対応した全く新しい測定法です。

- ノイズ、画像処理に強い
- 魚眼、超広角カメラにも対応
- 自由にテストチャートを配置可能
- 局所的なMTF測定が可能
- 測定エリア指定はマウス操作で簡単設定
- 簡単にMTFの測定が可能



マイルストーン

25年度に、デファクト・スタンダード獲得と収益化の両立を目指す



Leader

各カンパニーの事業計画

グロースビジネス・カンパニー

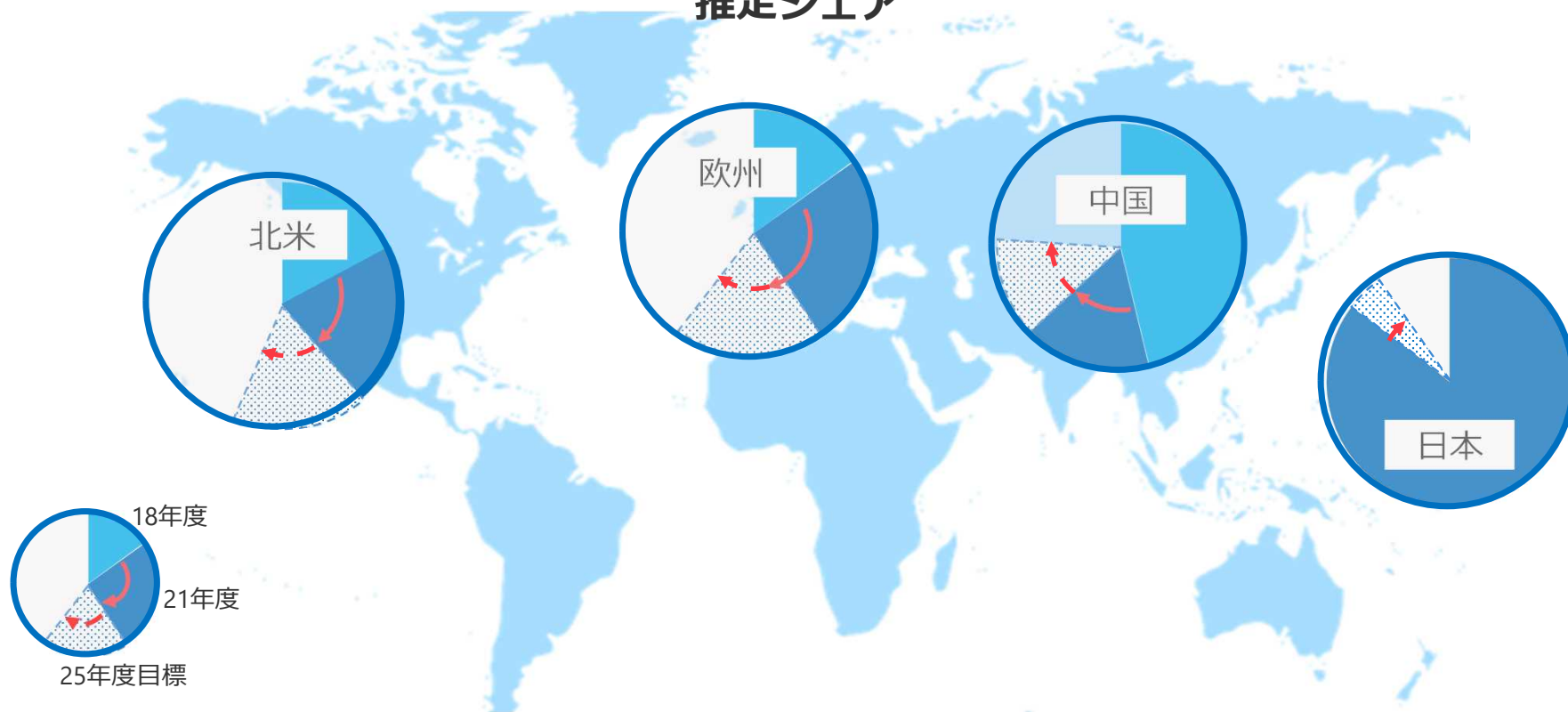
バリュービジネス・カンパニー

シェアードサービス・カンパニー

事業目標

放送関連機器市場において、北米・欧州・中国における
更なる拡販に取り組み、世界シェア60%超を目指す

推定シェア



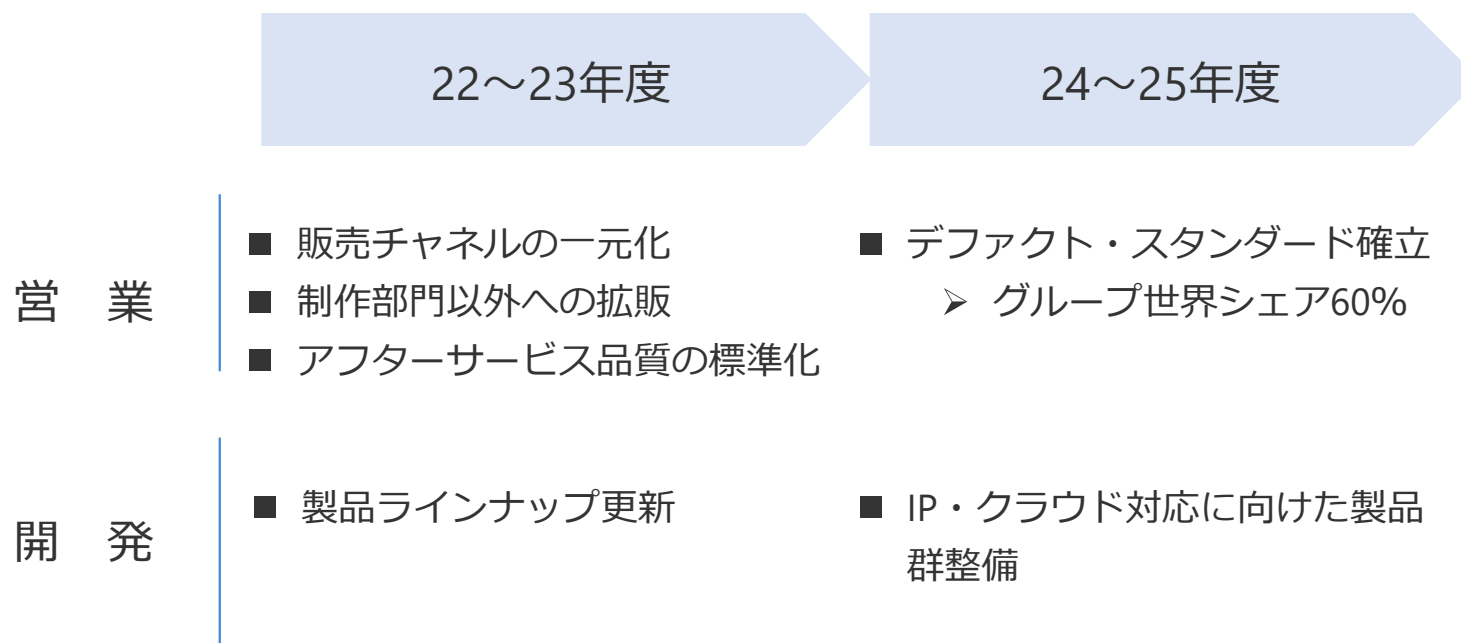
放送関連機器を取り巻く技術進化

急速に進む放送を取巻く2つの進化『IP化』『クラウド化』に向け、積極的投資を継続する



マイルストーン

製販両面からの取組を通じて、世界シェア60%超を目指す



Leader

各カンパニーの事業計画

グロースビジネス・カンパニー

バリュービジネス・カンパニー

シェアードサービス・カンパニー

グループ内のプロフィットセンターとして位置づけ、

- 両ビジネス・カンパニーに対する提供サービスの持続的向上
- コスト意識の向上

を目指す

マイルストーン

22～23年度

- サプライチェーン全体を通じた品質向上への環境整備
 - TQM部の創設
- グローバル経営に対応した経営管理体制構築
 - 経理部の独立・強化
 - グローバル管理会計システム構築

24～25年度

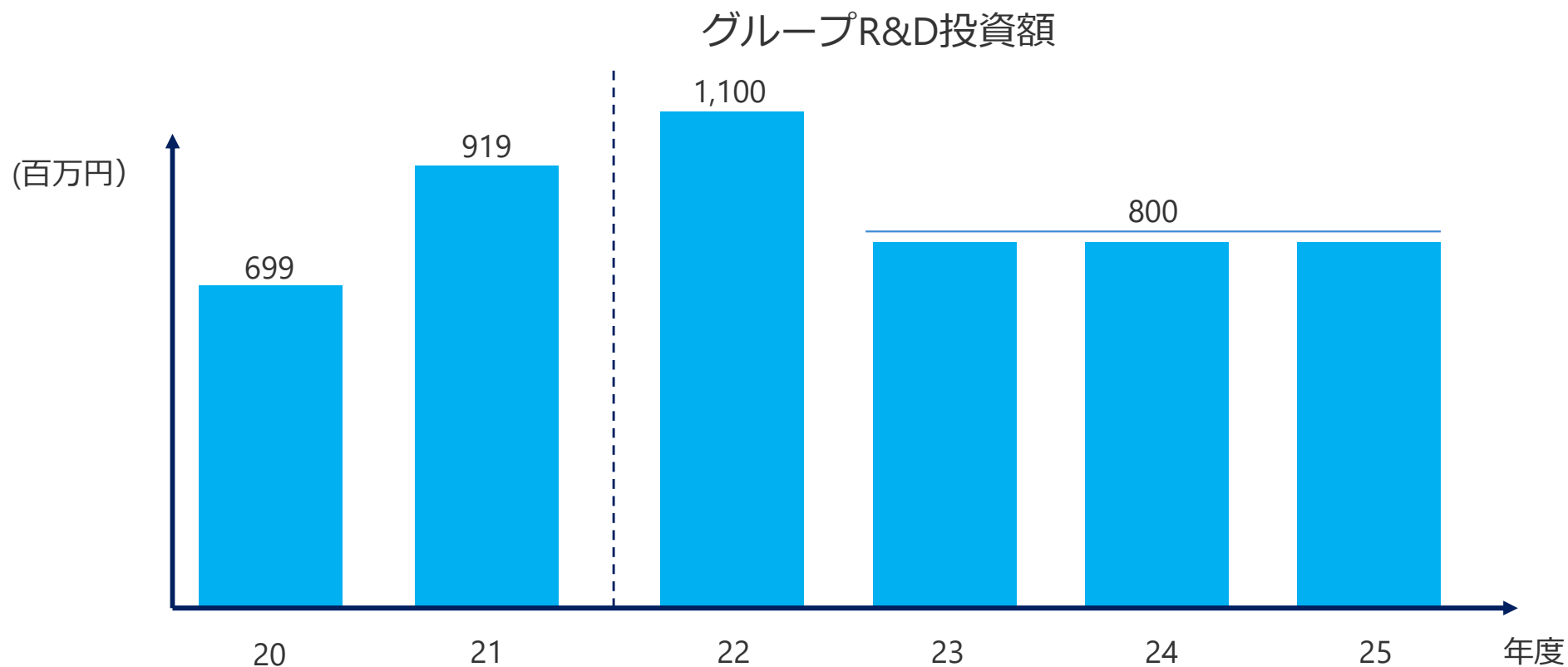
- TQMからの収益化システムの実現
 - 顧客満足度アップ→顧客維持力向上
 - アフターサービス収入アップ
 - コスト削減

Leader

グループ計画

R&D指針

激動の環境変化に迅速に対応すべく、R&D投資を加速化する
特に22年度は、21年度に引き続いて集中的に投資を進める



原材料ひっ迫への対応

22年度一杯は続く前提で、年度内に必要な部品の供給は年初に目途をつけつつ、供給途絶に対する緊急対応費として130百万円を計上する

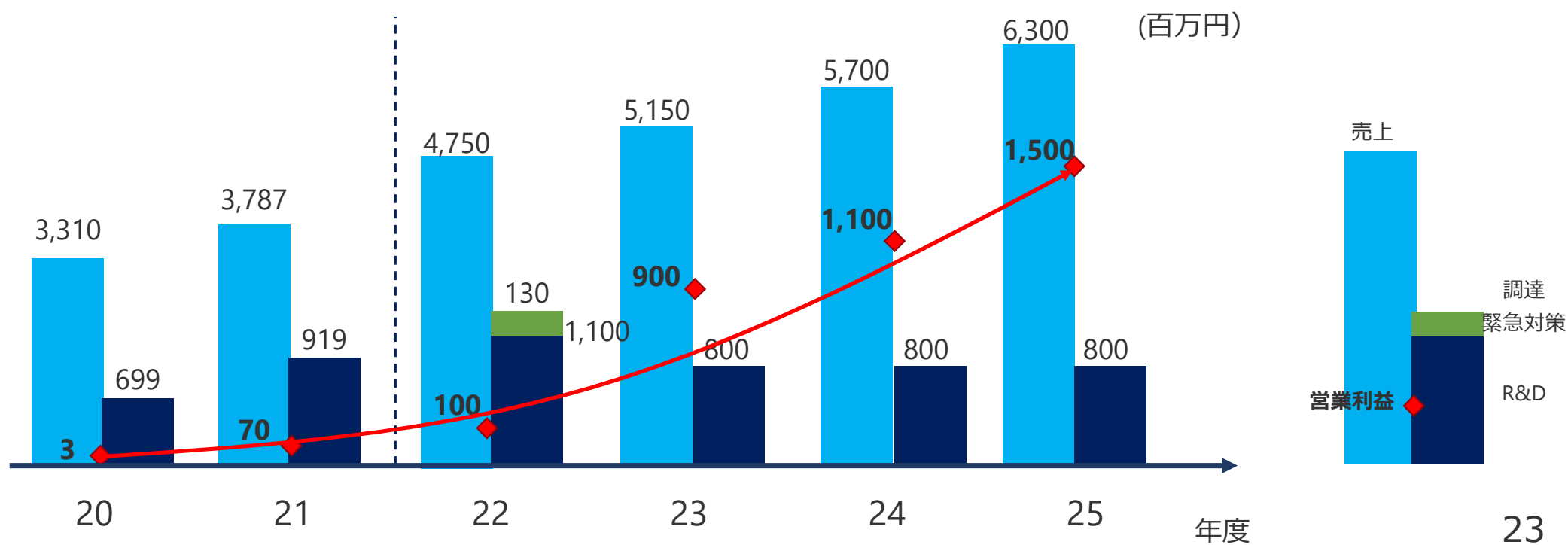


R&Dを加速化することを目的としたM&Aは常に模索していく

- 日本にとどまらず、グローバルを対象に
- 財務的体力上可能な限り、対象会社の規模・件数に上限を設けず

業績目標

25年度にはグループ営業利益[※] 1,500百万円を目指す



※ 今後実施するM&Aに係るのれん等の償却費を除く